

## もの言う牧師のエッセー 第189話 「42歳女性が2000本塁打達成」

4月末の夜、東京・歌舞伎町の「新宿バッティングセンター」に9年間通い続ける初谷純代さんが2000本目の“ホームラン”を放ち、「初めて人に誇れる結果を残せた」と笑った。もちろん同センターで斯様な記録を持つ者は男性でもおらず、追従者もなく、3000本塁打に向けて挑戦を開始したというからスゴイ。しかも彼女は現在42歳、身長153cmというから二度ビックリである。「毎日のように深夜の歌舞伎町でホームランを打ちまくる美女がいる」と噂が広まり、今や大勢の人が球速90キロのボールを次々に打ち返す彼女の勇姿をネット裏で見つめる。さらに同センターでは、初谷さんの影響からか女性の来場者が増加、今では半数が女性の日もあるそう。

しかし、実は彼女は高2で中退。その後うつ病を患い、家から出られなくなったこともあり、大学卒業後も職を転々とする日々が続いたというから驚く。そんなある日、交際相手の男性に連れられ同センターを訪れた彼女は、3回目の訪問の際に、15メートル先の高さ約8メートル付近に取り付けられた8枚の「ホームランボード」の1枚に打球が直撃して初本塁打を記録。もともと運動が得意でなく、野球経験はおろかバットの握り方さえ知らなかったが、「もっとホームランを打ちたい」と夢中になり、多い時は週5回、1日約1500球を打って、月に数十万円を使った。「打席に立つと負けず嫌いな一面が発見できて、強い気持ちを持つようになった」彼女が、ジムで毎日体調を整え、ヤクルトスワローズの雄平選手のスイングを参考に理想とする「力強く美しい打球」を目指す姿を見て、

### 「起きて、床を取り上げて歩きなさい。」ヨハネの福音書5章8節、

と、イエスが、38年間病気で伏せていた人に向かって叫んで癒した“ベテスダ池の奇蹟”を思い出した。問題はイエスの癒しだけでなく、癒された本人自身に床を担がせ歩かせことだ。苦難にぶち当たり、酒に溺れたり、引きこもったりした後にイエスと出会う人は多い。だがそれだけでは不十分である。立ち上がって「イエスの力強い美しい姿」を目標に歩み始め、やがて「誇れる結果を残す」ために奮闘せねばならない。それは決して不可能ではない。キリストを心から信じる者には、パートナーである彼が目標まで連れて行ってくださるから。

2015-6-19

